

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成28年												平成29年																				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月 ~7日	5月 ~14日	5月 ~21日	5月 ~28日	6月 ~4日	6月 ~11日	6月 ~18日	6月 ~25日	7月 ~2日	7月 ~9日	7月 ~16日	7月 ~23日	7月 ~30日	8月 ~6日	8月 ~13日	8月 ~20日	8月 ~27日
カンピロバクター	72	56	111	153	116	189	214	150	101	118	66	84	61	68	80	122	9	30	19	25	24	34	31	29	24	26	45	20	27	18	17	22 (24)	24
病原性大腸菌	140	146	163	167	150	157	240	182	166	227	180	147	107	105	89	113	6	7	37	14	27	60	26	22	30	53	39	43	41	27	49	26 (32)	51
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	3	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
サルモネラ	12	4	2	8	12	4	19	21	12	16	4	6	0	1	7	11	2	2	3	3	4	2	3	4	3	2	6	2	5	12	6	4 (7)	4
黄色ブドウ球菌 MSSA	23	20	25	14	19	32	14	24	23	27	8	15	6	11	12	15	2	5	1	1	8	0	9	4	7	6	6	4	9	2	5	4	6
黄色ブドウ球菌 MRSA	11	11	16	21	20	27	24	19	19	18	14	20	16	19	13	17	5	4	3	3	5	3	11	4	6	10	5	3	3	5	2	3	6
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	3	3	1	9	10	9	4	2	2	0	2	1	3	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	5	4	3	2	1	4
ロタウイルス	4	19	29	24	29	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	6	0	1	3	2	1	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
アデノウイルス	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
ノロウイルス	20	20	5	9	2	2	5	0	0	0	0	21	7	4	8	6	0	2	7	2	4	2	1	6	2	4	1	1	0	0	0	0	2

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

* その他の4件は、アエロモナスでした。

広島県感染症発生動向週報

平成29年第34週(8月21日~8月27日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	6	結核	6		1			3		2	
三類	3	腸管出血性大腸菌感染症	3				1			2	
四類	6	デング熱	1						1		
		日本紅斑熱	5	1	1	1				2	
五類全数	11	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1			1					
		クロイツフェルト・ヤコブ病	1			1					
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2					2			
		梅毒	7					5	1	1	

注) 西部 … 大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島市、江田島市 西部東 … 竹原市、東広島市、大崎上島町
東部 … 三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北 部 … 三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第34週 8/21~8/27)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. 梅毒

5件の報告があり、今年の累計は44件(男性25件、女性19件)となりました。年齢階層別報告数は、20~40代が全体の88.6%を占め、男性では40代、女性では20代がそれぞれ最も多くなっています。(2016年の年間報告数は27件)

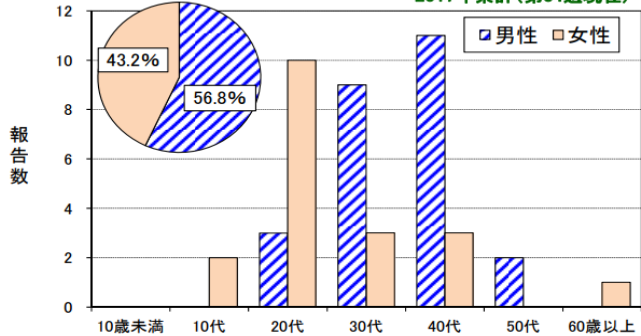
感染が疑われる症状が見られた場合には、早めに医療機関を受診し、相談しましょう。

2. RSウイルス感染症

定点当たり2.29人と、例年同時期と比べて多い状況が続いています。体調管理に注意し、手洗いの励行や咳エチケットなど感染予防対策を徹底しましょう。

梅毒の男女別・年齢階層別報告数(広島市)

2017年累計(第34週現在)



第33週はお盆期間中で、医療機関の休診の影響により患者報告数が少なくなっている可能性があり、正確な比較ができないため、第34週は「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	-		小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.73	
	咽頭結膜熱	7	0.29	0.52			RSウイルス感染症	55	2.29	0.59	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	1.38	0.65		眼科	急性出血性結膜炎	2	0.25	0.05	
	感染性胃腸炎	98	4.08	3.34			流行性角結膜炎	6	0.75	1.29	
	水痘	20	0.83	0.62		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	83	3.46	1.60			無菌性髄膜炎	1	0.14	0.23	
	伝染性紅斑	-	-	0.27			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.40	
	突発性発しん	9	0.38	0.53			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.04			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	21	0.88	0.96							

急増減 ↑ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↘ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇄ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	98	女性(30歳代)・推定感染地域: 国外・1人、女性(80歳代)・1人
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	2	男性(40歳代)・1人、女性(70歳代)・1人
5	梅毒	5	44	女性(20歳代)・2人、女性(30歳代)・1人、男性(40歳代)・2人

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	発熱(39.2) 発疹 水疱 口内炎	2	男	2017/07/08	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型
流行性角結膜炎	結膜充血 眼脂 濾胞性結膜炎 角膜混濁 点状表層角膜炎 重圧感	27	男	2017/07/03	結膜擦過物	アデノウイルス56型
その他の呼吸器疾患	発熱(40.4) リンパ節腫脹	6	女	2017/07/13	咽頭拭い液	アデノウイルス2型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 肺炎	1	女	2017/07/01	咽頭拭い液 鼻汁	パラインフルエンザウイルス3型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.0) 肺炎	1	女	2017/07/01	咽頭拭い液 鼻汁	パラインフルエンザウイルス3型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.4) 紅斑 咽頭炎 リンパ節腫脹	3	男	2017/07/05	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の消化器疾患	下痢 腸重積	0	男	2017/07/20	糞便	パレコウイルス1型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載